

人材育成

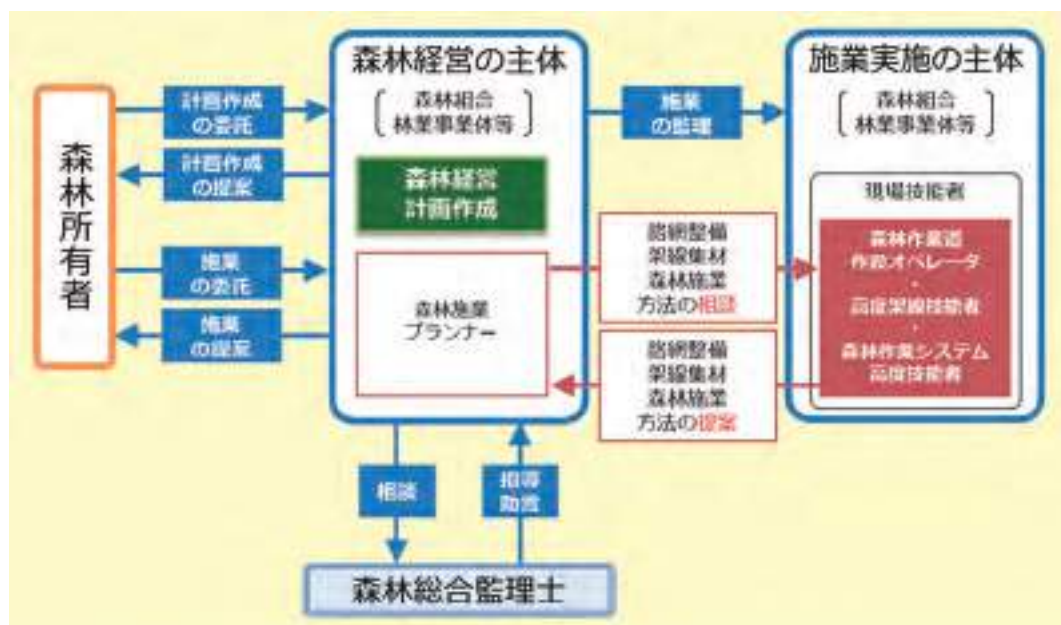
2-1 森林作業システムを提案できる現場技能者

Point !

森林施業の効率化を提案できる高度で専門的な知識と技術を有する現場技能者の育成が必要

森林資源を循環利用していくためには、森林に求められる機能に応じた目標林型を定め、森林経営計画に則った適切な監理・施業を実施することが必要です。

森林経営の主体となる森林施業プランナーは、森林総合監理士からの指導・助言を受けながら、森林所有者に対して森林施業の計画を提案・合意形成を図り、森林施業を集約化し森林経営計画を作成しますが、このとき、実際に作業を行う現場技能者の意見を聞くことが不可欠となります。このため、森林施業プランナーと協力し、森林施業の現場から、現場の状況に応じた路網整備計画や架線計画を提案し実践できる高度で専門的な知識と技術を有する現場技能者の育成が必要です。



Point !

作業を効率化するための方法を「考える力」と改善点等を「伝える力」が求められる

また、現状の森林作業システムを改善するヒントは現場にあります。高度で専門的な知識を持った現場技能者には、現状の森林作業システムに関するボトルネックを解消し作業を効率化するための方法を「考える力」のほか、経営者や森林施業プランナー等に対して、現行の森林作業システムの改善点や代替案を、分かりやすく説明し「伝える力」も求められます。

2-2 多能工の育成と技術の研鑽

Point !

弾力的に森林作業システムを運用するためには、多能工の育成が必要

林業は、造林⇒下刈り⇒間伐⇒主伐といったサイクルで森林資源を循環利用し、継続的に木材等を生産する産業です。このうち、木材生産だけを見ても、伐倒⇒集材⇒造材⇒運搬のように多工程に及ぶことから、弾力的に森林作業システムを運用するため、各作業工程の進捗に応じた人員配置や人員の変動があった場合に対応できる体制の整備が必要になります。

このため、リーダーの指示に従い、チェーンソーによる伐倒や高性能林業機械等を活用した木材生産における各工程での作業、造林や下刈り作業等に対応できる現場技能者である多能工の育成が必要です。



Point !

指示・指導ができるリーダーといった高度技能者を育成することも必要

多能工だけでなく、継続的に技術を磨き、森林作業システム全体を把握するとともに、再造林や保育を踏まえた各作業工程における指示・指導ができるリーダー、木材価格を意識した造材作業ができるハーベスタのオペレータ、安全で効率的な路網を設計・施工できる森林作業道作設オペレータ、架線計画を立案できる架線集材作業の指揮者（高度架線技能者）といった高度技能者を育成することも必要です。

このような人材を育成するためには、例えば、①伐倒や下刈り、造林作業、架線集材における滑車等器具の設置、②高性能林業機械等の基本操作、③集材機の運転や荷掛け作業のような森林施業の基礎となる作業を現場で繰り返し実践し、習得を目指します。

そして、多能工として経験を積んだ後に、生産性やコストに関する知識、木材価格を意識した造材方法や路線選定・施工方法、架線計画の考え方といった知識の習得に励み、専門性の高い技術の習得とその高度化を目指します。

2-3 組織としての技術力の向上

Point !

情報や技術の共有化を図り、組織としての木材生産に関する技術力を向上

森林作業道作設や集材作業における機械操作は個人の技術ですが、森林作業システムにおける木材生産に関する工程の連携を考えると組織の技術とも言えます。

例えば、高性能林業機械のオペレータが研修を受けて得た成果を、同僚のオペレータ等に伝え情報共有する場が無いと、研修の効果が個人の経験に留まってしまい、組織内で技術進化することなく、やがて劣化してしまうことになります。

このため、個人の能力を高めながら、情報や技術の共有化を図り、組織としての技術力を高め、応用力の高い作業班を育成することが重要です。

Point !

自分の技術を活用するには、その行動に対しての理由を説明することが必要

現場技能者は、自己研鑽により磨いた技術を、現場の条件に応じて、安全性や効率性を考慮したうえで提案し活用することが求められます。このためには、自分で判断した作業に責任を持つとともに、必ずその行動・決断に対しての理由を説明することが必要です。

しかし、経験豊富な現場技能者であっても判断ミスがあるので、その失敗を責めるだけではなく、より良い作業方法を考えていくことができる職場環境を作ることも、組織としての技術力を向上するためには大切です。

2-4 プロ意識の向上

Point !

林業のプロという意識を持ち、地域や森林所有者等から信頼を得ることが重要

現場技能者は、林業のプロとして、高い技術力を備えるとともに、請け負った仕事の将来に責任を持って適切な森林施業を実施し、多くの利益を還元することにより、地域の森林所有者から信頼を得ることが重要です。

こうすることで、森林施業の集約化に必要な森林所有者との合意形成が容易になり、より効率的かつ合理的な路網を整備し、生産性の高い森林作業システムを運用することが可能となり、更なる利益の向上にも繋がります。

